

2020年度
富田林市自治体モデル事業
(全体マネジメント・普及啓発) 推進業務

事業報告書 (概要版)



SDGs 未来都市

富田林

ACT FOR 2030

事業主体：富田林市

連携：大阪大谷大学・一般社団法人富田林医師会・アルケア株式会社

作成：アルケア株式会社 (本業務受注者)

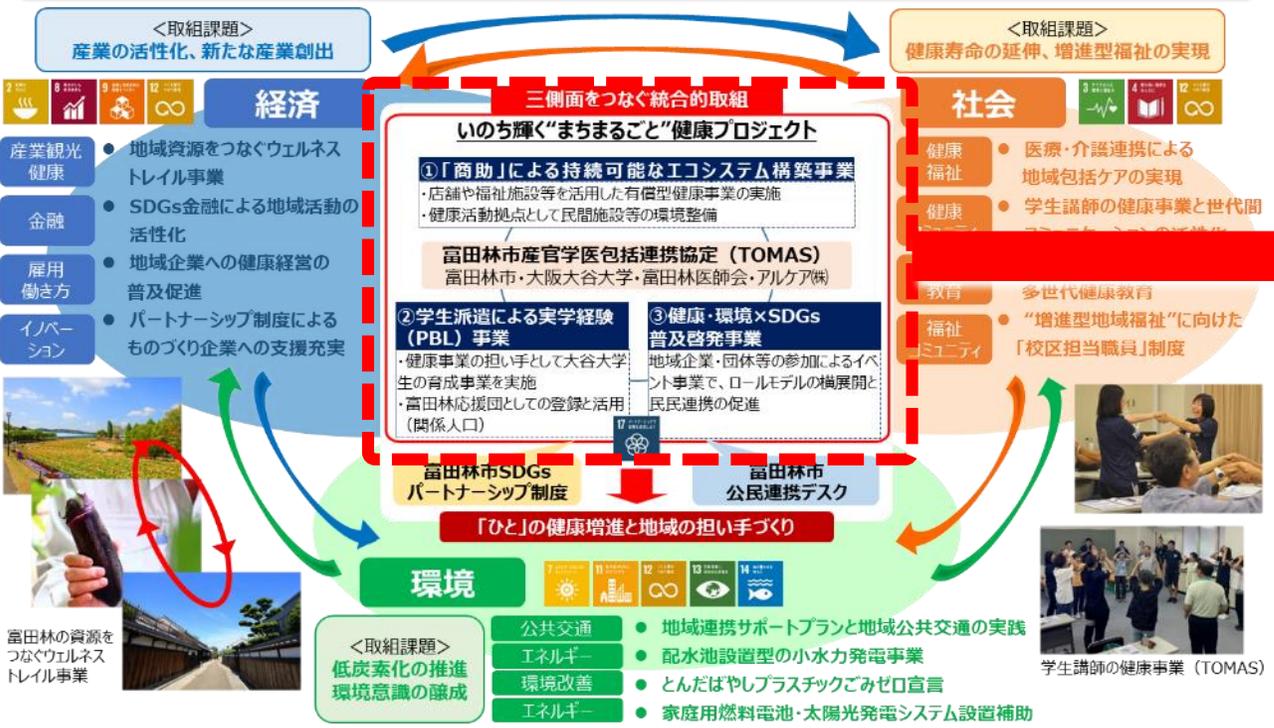
0_事業目的

令和2年7月に内閣府から自治体SDGsモデル事業として選定を受けた「富田林発!「商助」によるいのち輝く未来社会の実現プロジェクト」において、経済・社会・環境の三側面をつなぐ統合的取組として位置付けた「いのち輝く“まちまるごと”健康プロジェクト」の実施を目的に、「商助」を軸とした健康事業や若者人材の育成、市民へのSDGs普及、ステークホルダー間の連携創出等の一連の事業を実施しました。

令和2年度自治体SDGsモデル事業

大阪府富田林市 富田林発!「商助」によるいのち輝く未来社会の実現プロジェクト

「富田林市産官学医包括連携協定（通称TOMAS）」を核に、民間主体による有償型健康事業等（いのち輝く“まちまるごと”健康プロジェクト）を展開し、三側面を支える「ひと」の健康を増進するとともに、市独自の公民連携デスクとパートナーシップ制度の活用により、統合事業及び三側面の取組の底上げと加速化を図る。



本事業の範囲

1_「商助」による持続可能な
エコシステム構築事業

1-1_市民の健康増進・介護予防（健康ポイント事業）
1-2_市役所の健康経営（CHO事業）

2_学生派遣による実学経験（PBL）事業

3_健康×SDGs普及啓発事業

1-1_市民の健康増進・介護予防（健康ポイント事業）

(1) 実施概要

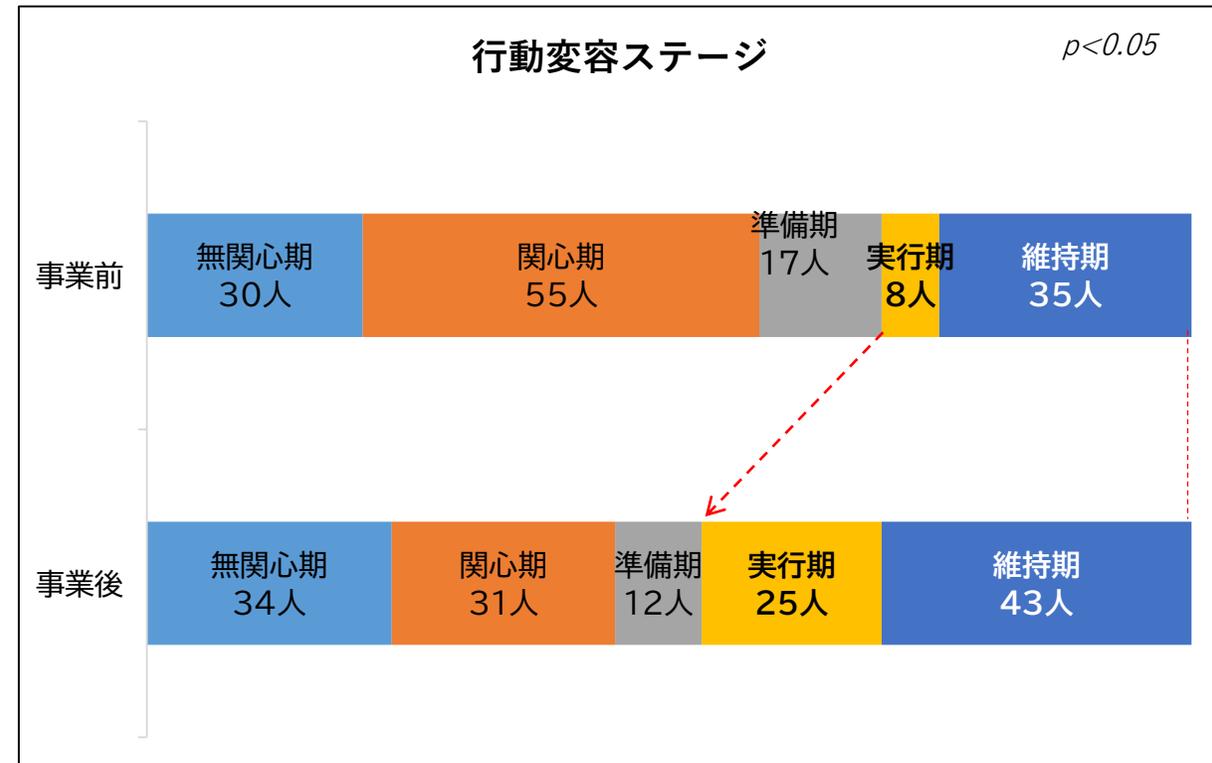
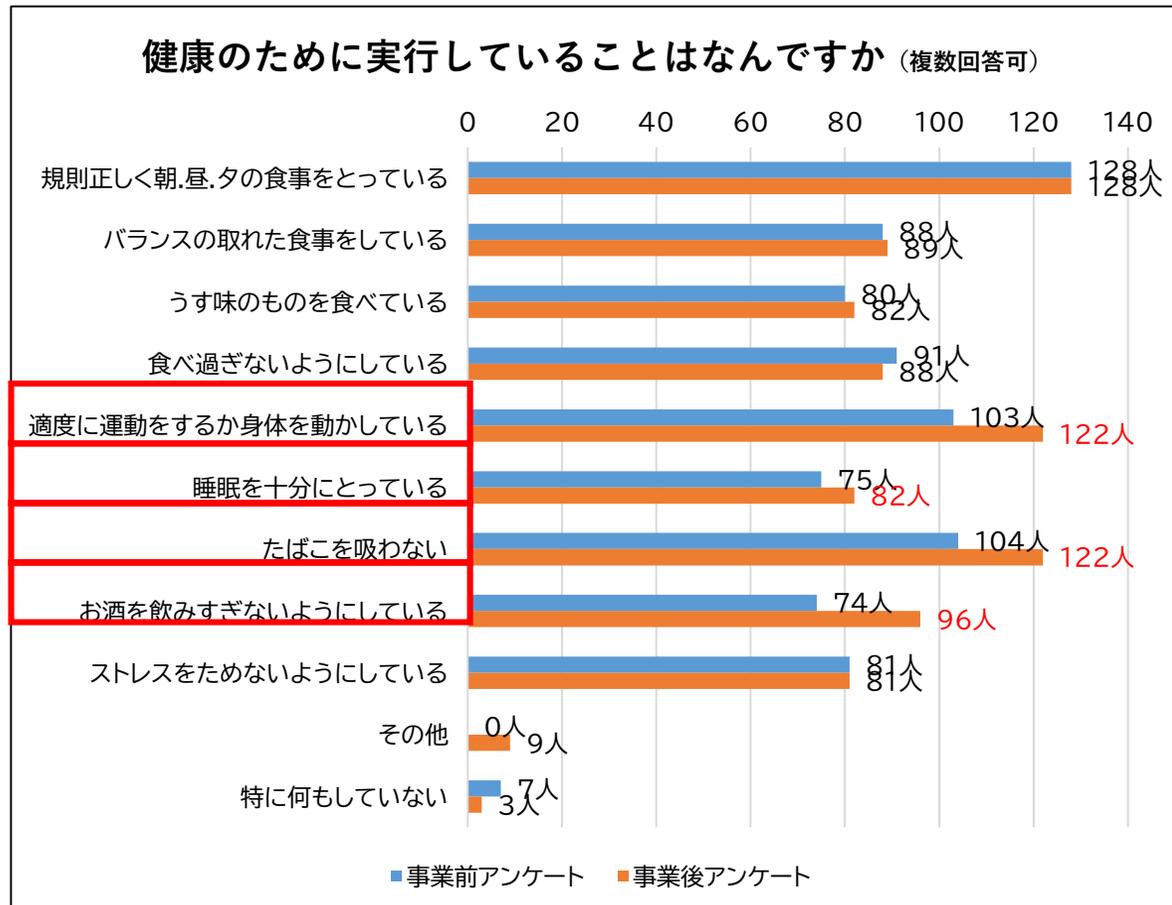
事業目的	無関心層も含めた市民の健康増進・介護予防の動機付け・意識付けを図るとともに、「商助」をキーワードにした地域店舗等の参画により、ヘルスケアの切口による新たな稼ぐ仕組みにつなげることで、社会的・経済的に持続可能な事業運営をめざす。
実施方法	<ul style="list-style-type: none">市民に活動量計を貸与し、ウォーキング等の健康活動を促進する。体組成計及び活動量計リーダーを地域店舗や公共施設に設置（拠点化）し、市民がウォーキング等の活動の中で利用することで、健康数値の見える化や健康ポイントの蓄積を行なう。健康拠点のモニタリングから得た健康数値を分析し、事業の効果検証や新たな健康事業のデータに基づく企画を実現する。
対象	40歳以上の市民 (R2年度は梅の里地区・大伴地区・金剛地区でモデル募集)
参加者数	180人(男性:64 女性:116) 平均年齢:66.9歳
実施期間	11月:参加市民・拠点店舗等の募集 12~3月:健康ポイント蓄積
健康拠点	20箇所(公共施設4・民間施設16)

事業全体イメージ



(3) 実施結果：市民参加者

- 参加者は約3カ月間で、生活習慣の改善と、行動変容ステージ※の改善がみられた。
- 生活習慣では、運動だけでなく、睡眠、喫煙、飲酒の習慣についても改善がみられた。
- 行動変容ステージでは、実際に生活習慣の改善を始めた「実行期」以上の人数が25人増加した。



※ 行動変容ステージ：

健康診断の間診票などで用いられ、食生活や運動習慣について自身の生活習慣を変える意思を5段階で評価する。ステージに応じて、行動変容のための最適な支援の方法が異なる指標である。

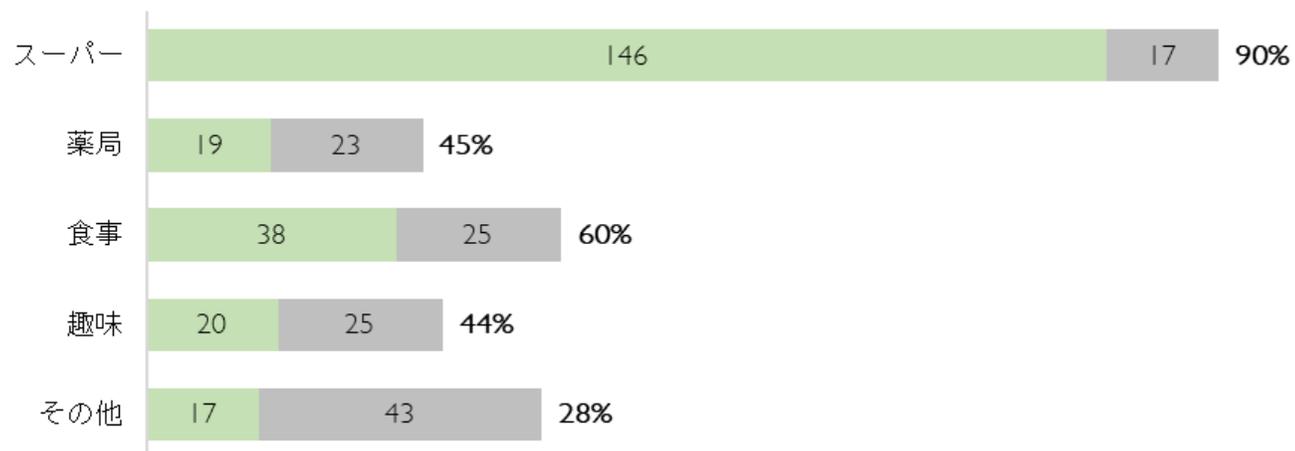
1_「商助」による持続可能なエコシステム構築事業

(3) 実施結果：民間事業者

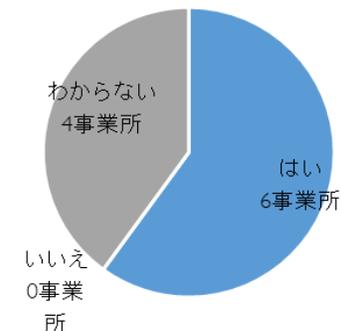
- 参加者の**64%**が、健康拠点の利用とともに「ついで買い」をした（健康と消費活動の相関性）。
- 本事業への参加により、自社のPRや顧客獲得につながったと回答した事業者が多かった。

集計業種	業種	期間中拠点に行った人 [人]		ついで買い率 (B/A)
		総数(A)	購買あり(B)	
スーパー	店舗A	60	54	90%
	店舗B	53	48	91%
	店舗C	50	44	88%
薬局	店舗D	21	10	48%
	店舗E	15	6	40%
	店舗F	6	3	50%
食事	店舗G	12	10	83%
	店舗H	11	7	64%
	店舗I	16	12	75%
	店舗J	12	4	33%
	店舗K	8	5	63%
	店舗L	4	0	0%
趣味	店舗M	38	15	39%
	店舗N	7	5	71%
その他	店舗O	10	2	20%
	店舗P	39	8	21%
	店舗Q	11	7	64%
合計/平均		373	240	64%

近接業種でまとめたついで買い率と回答数の内訳



事業がきっかけで自社のPRにつながっていると感じますか。



今年度、事業をきっかけとした来客や顧客獲得につながりましたか。



(3) 実施結果：行政（富田林市）

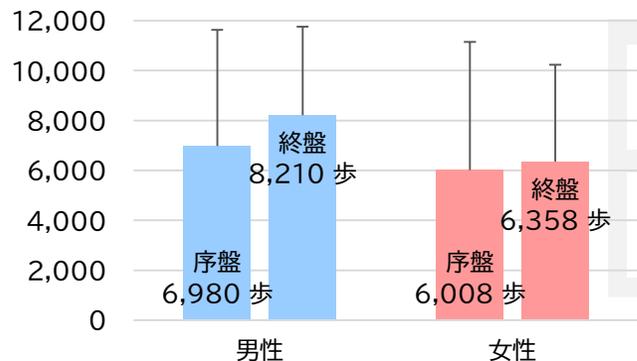
- 先行自治体の検証結果を参照し、「歩数の増加」「事業への参加」の観点で、本事業の結果から医療費抑制効果額を試算した。
- いずれも試算ベースとなるが、医療費抑制効果が期待できる結果となった。

医療費抑制額（試算）

事業参加で 628万円抑制	歩数増加で 298万円抑制
-------------------------	-------------------------

歩数の増加

実施期間中の平均歩数の変化(期間を三分割)



男性
1230歩UP
女性
350歩UP

人数	×	歩数の変化量	×	歩数単価(※)	×	年換算	=	年間の医療費抑制効果額
男性：64人 女性：116人		1230歩 350歩		0.0685 円/歩/日		365		197万円 101万円 計298万円

(※) 「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン」より

事業参加



市民参加
180人

参加人数	×	年間削減額(※)	=	年間の医療費抑制効果額
180人		3.49万円/年/人		628万円

(※) 「大阪府高石市健幸ポイント事業」「埼玉県志木市いろは健康ポイント事業」各報告資料より

1-2_市役所の健康経営（CHO事業）

(1) 実施概要

<p>事業目的</p>	<p>市職員の自発的な健康活動を促進し、メタボリックシンドローム対策や、プレゼンティーズム（生産性低下）の抑制、働きがいの向上、職場内コミュニケーションの促進など、「市役所の健康経営」につなげる。</p>
<p>実施方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 松田副市長がCHO（Chief Health Officer:健康管理最高責任者）となり、CHO宣言を发出 各部から応募のあった職員を対象に、活動量計を配布し、日々の健康活動を推奨 初回時、中間時、最終時に体組成の測定による健康数値を見える化（歩数上位者や部局をCHOから表彰） 参加者から得た健康数値を分析し、生産年齢に特化した事業の効果検証を実施
<p>対象</p>	<p>各部局の富田林市職員</p>
<p>参加者数</p>	<p>169人（男性：132 女性：37） 平均年齢：42.4歳</p>
<p>実施期間</p>	<p>11月：参加募集・初回測定 12～2月：健康活動（中間測定） 3月：最終測定・分析</p>





令和2年度 CHO 宣言書

職員が心身ともに健康に働ける市役所をめざして、「健康経営」に取り組むことを宣言します。

令和2年11月6日
富田林市 副市長 松田貴仁



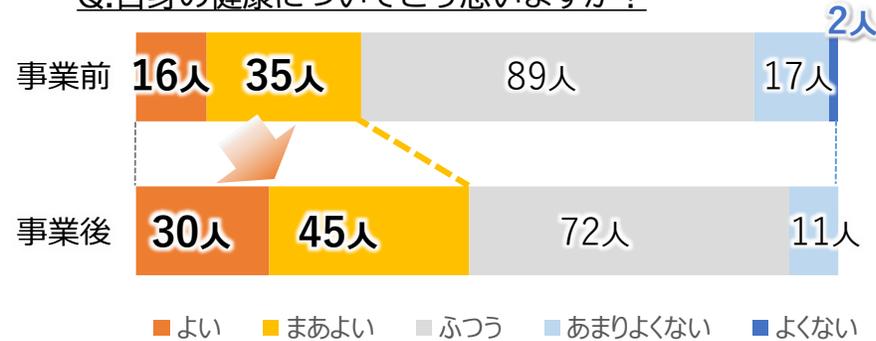
チャレンジ期間は2021年1月末まで
負けられない戦いが役所にはある。

(2) 実施結果

- 死亡率や各種疾病の発症との関連が報告されている主観的健康観の向上が見られた。
- プレゼンティーズムの解消により労働生産性が全体で2%改善が見られた(経営コストで約2,000万円の効果額)。
- 職場内コミュニケーションへの寄与も見られた。

主観的健康観

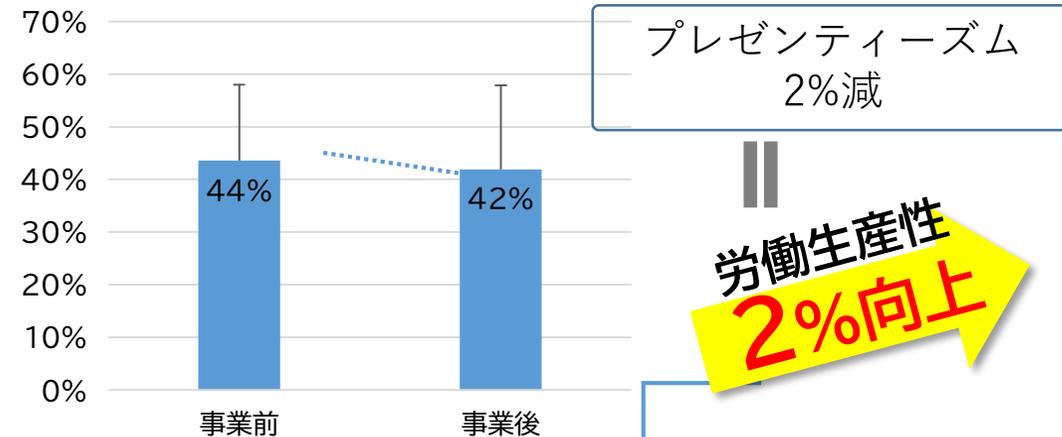
Q.自身の健康についてどう思いますか？



「よい・まあよい」→**24人増加**
「よくない」→**0人!**

労働生産性(プレゼンティーズム※)

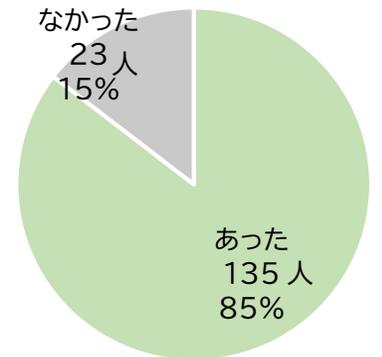
(※) 健康問題によって出勤時の生産性が低下している状態
絶対的プレゼンティーズムの平均値



$$\begin{array}{|c|} \hline \text{平均給与} \\ \hline 615\text{万円/年} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{人数} \\ \hline 169\text{人} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{生産性の改善率} \\ \hline 2\% \\ \hline (0.02) \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{経営コストの削減額} \\ \hline \mathbf{2,078\text{万円}} \\ \hline \text{/年} \\ \hline \end{array}$$

コミュニケーション

本事業について課内でのコミュニケーションはありましたか。



2_学生派遣による実学経験 (PBL) 事業

2_学生派遣による実学経験 (PBL) 事業

(1) 実施概要

事業目的	TOMAS連携により、2019年度に実施した介護予防事業（学生講師のロコモ体操教室）の展開として、ヘルスケアビジネスの立案をテーマとした課題解決型学習（Project Based Learning）を実施することで、実学経験による学生人材の育成を目的とした。																					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> 事前・実習・発表を含むPBLカリキュラムを設計 コロナ禍を踏まえたオンライン実習により、ヘルスケアビジネスの立案（健康×SDGsシンポジウムでの発表・審査） 	全6回カリキュラム																				
対象	大阪大谷大学 （スポーツ健康学科）																					
参加者数	10人（1～3年生）																					
講師	アルケア（株）																					
実施期間	11月：参加募集		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実習</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">座学 実習</td> <td>Step1</td> <td>SDGs未来都市事業とPBL事業について</td> </tr> <tr> <td>Step2</td> <td>ビジネスプラン作成のためのスキルセット</td> </tr> <tr> <td>Step3</td> <td>ビジネスでお金を貰うということ</td> </tr> <tr> <td>Step4</td> <td>ビジネスプランの深堀</td> </tr> <tr> <td>Step5</td> <td>ビジネスプラン確定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">発表</td> <td>Step6</td> <td>リハーサル</td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>シンポジウムでビジネスプラン発表</td> </tr> </tbody> </table>		実習	内容	座学 実習	Step1	SDGs未来都市事業とPBL事業について	Step2	ビジネスプラン作成のためのスキルセット	Step3	ビジネスでお金を貰うということ	Step4	ビジネスプランの深堀	Step5	ビジネスプラン確定	発表	Step6	リハーサル	発表	シンポジウムでビジネスプラン発表
				実習	内容																	
	座学 実習			Step1	SDGs未来都市事業とPBL事業について																	
Step2		ビジネスプラン作成のためのスキルセット																				
Step3		ビジネスでお金を貰うということ																				
Step4		ビジネスプランの深堀																				
Step5		ビジネスプラン確定																				
発表	Step6	リハーサル																				
	発表	シンポジウムでビジネスプラン発表																				
12～3月： オンライン実習（6回）																						
3月14日：発表・審査																						

2_学生派遣による実学経験（PBL）事業

（2）実施結果：学生プラン

- 参加学生による3グループが、ヘルスケアビジネスプランの企画・発表を行なった。

チーム名[人数]	S&S (Sports & Shopping)[4]	地方[3]	FW[3]
プラン名	「富田林shopping」	「コムスポ」	「PASS」
テーマ	高齢者を対象とした「買い物×体操教室」	高齢者を対象とした「運動不足」と「地域コミュニケーション不足」の解決	高齢者を対象とした「繋がり」と健康」
概要	<p>高齢者、介護士、富田林市内の店舗の「不」を解決することで、持続可能な取組を目指す。具体的には、普段運動をしたくても機会がない高齢者が日常的にする買い物の機会を利用して、市内の店舗で運動指導士を目指す大学生たちが運動指導を行う。</p> 	<p>富田林市内の公園でモルックというフィンランド発祥のスポーツを実施することで、地域コミュニティの活性化と高齢者の運動不足を同時に解決する。</p> 	<p>繋がり薄れてきている地域の高齢者を対象に、ヨガなどの健康増進教室を実施。参加者同士の繋がりを継続していく工夫として、富田林市内の携帯ショップや電気屋さんと連携し、IT機器の使い方を学べる工夫も凝らしている。</p> 

富田林市における高齢化等の現状・課題を踏まえたプランとなっており、今後の健康ポイント事業の展開やTOMAS連携、ウェルネストレイル事業等へのつながり、社会実装への準備となる提案企画が出された。

2_学生派遣による実学経験（PBL）事業

（2）実施結果：最終レポート

- 参加学生によるレポートでは、実習を通じて自己成長を感じ、調査を通じて地域課題への関心を深め、ビジネスプランを実装したいとする声が多く寄せられた。
- それら意見により、市の健康施策の担い手となれる可能性が見られた。

（最終レポート抜粋）

- ◆ 地域によって大きな違いがあり解決策を見つけるのは難しいが、その地域だからできる事を見つける必要性を感じた。
- ◆ 人前で自分の意見を発表できるようになった。
- ◆ 今まで、流れに身を任せていた自分が本当に社会を変えたいと考えていたことに驚き、変えられる何かがあるなら本当に変えたいと思った。
- ◆ 自分達が考えたことを実行してみたい。次回も参加したい。
- ◆ 自分の住む町で事業をしてみたい。子供や子育てや貧困などの事業もやってみたい。
- ◆ 自分達が考えたことを実現してみたい。実際に出た課題を改善して繰り返し行っていきたい。

後輩や友人に
紹介したい **100%**

活動を
継続したい **88%**

次回も参加
したいですか **100%**

3_健康×SDGs普及啓発事業

3_健康×SDGs普及啓発事業

(1) 実施概要

事業目的	市民・学生・地域事業者や包括連携事業者とともに、SDGsを学び、富田林発のSDGs実現に向けた取組を企画するワークショップや、それらの活動発表を行うシンポジウムを開催し、広くSDGsの普及啓発につなげるとともに、さまざまなステークホルダー間のマルチパートナーシップによる取組の推進につなげる。
実施方法	<p>①「SDGsとこれからの富田林をみんなで語るローカルダイアログ」 (カードゲーム形式ワークショップ)の実施</p> <p>②「SDGs未来都市・富田林健康×SDGsシンポジウム」の実施</p> <p>③SDGsロゴマークの作成・公表</p>
開場	<p>①zoom・会場(市政策推進課)</p> <p>②YouTube配信(撮影Topic)</p>
企画・講師	株式会社クレメンティア
対象	市民・学生・地域事業者・包括連携事業者 等
参加者数	<p>ワークショップ:44名(包括事業者8社含む)</p> <p>シンポジウム :817再生(会場観覧6人)</p>
実施期間	<p>12月:参加募集 1~2月:ワークショップ実施</p> <p>3月14日:シンポジウム開催</p>



3_健康×SDGs普及啓発事業

(2) 事業全体像

- 市民・学生・地域事業者を対象とした一連のワークショップ(ローカルダイアログ)で生まれた「アイデアの種」を、包括連携事業者のワークショップでモデルプランとして磨きあげ、シンポジウムで発表を行なった。

オンライン

リアル

随時調整

事業目的

- ・SDGs機運・理解促進
- ・参加者・ステークホルダー間の対話やアイデア創出過程で共創意識の醸成
- ・新たな民民連携・パートナーシップ構築の促進(プラットフォーム化)

ゴール(今年度)

- ・シンポジウム成果発表
- ・参加者のパートナーシップ登録(第一認証)

展開(次年度以降)

- ・民民連携による地域実証の可能性検討

KPI(内閣府報告)

- ・全参加者数 200(LD50人・シンポ150人想定)

事業運営

- ・アルケア(株)(業務受注者)
- ・(株)クレメンティア(再委託)

① 学生LD

1/18 (月) 18:30~21:30 オンライン (11人)

【アウトプット】

- ・地域課題・資源の可視化
- ・市民・地域事業者・学生から出てくるアクションプランの種(約20-30程度)

②-1 市民LD

1/20 (水) 18:30~21:30 オンライン (8人)

選択

②-2 市民・地域事業者LD

1/24 (日) 13:30~16:30 Topic (10人)

③ 連携事業者LD

2/8 (月) 14:00~17:00 オンライン (8社 15人)

【アウトプット】

- ・事業経営のコアとなる6つの資本の観点から資源の棚卸し
- ・事業モデルのアイデアスケッチを作成

事業モデルプラン企画

2/8~ 事業モデルプラン企画

【アウトカム】

- 市民のアイデアの種を活かした市民・包括連携事業者の創発的協働による健康×SDGsにつながる事業プラン発表(3-4つ)

【アウトプット】

- ・市民のアイデアの種を活かした創発的協働による健康×SDGsにつながる事業プランを作成

シンポジウム

3/14 (日) 13:00~17:00

オンライン (817再生)

有識講演・TOMAS説明・LD発表・学生発表 など

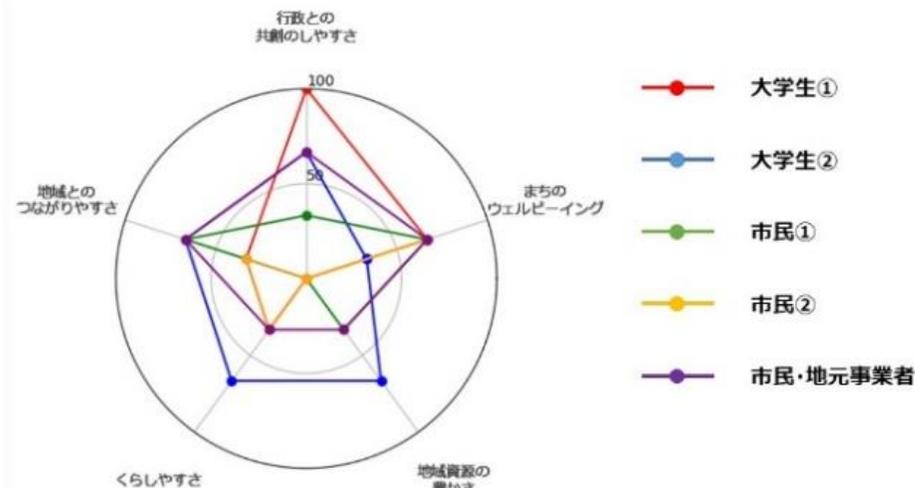
3_健康×SDGs普及啓発事業

(3) 実施結果：SDGsとこれからの富田林をみんなで語るローカルダイアログ

- ローカルダイアログにより、市民・学生・地域事業者が感じる富田林の現状分析や、36の「アイデアの種」が生まれた。また、「アイデアの種」に基づき、包括連携事業者による5つの事業プランが作成された。



自分たちが目指したいまちのビジョンカード



富田林 & 自分 × 健康 × 理想のまち
を組み合わせた
アイデアの種 (抜粋)

- 課外活動を通じて多様な経験
- みんなで助け合える外遊び
- 市民の健康取組みを見える化し刺激し合う
- 地産地消ができていいる野菜
- 地産地消を推進して長生き
- 地産地消で人と人が信頼しあえる豊かな地域
- 子育てしやすいつながりづくり
- 挑戦を助け合うパフォーマンス

包括連携事業者5社による
具体的アイデア

- 大塚製薬(株)**
体調管理をして安心・安全なまち
- 第一生命保険(株)**
笑顔で健診を受けるまち
- (株)ジェイコムウエスト**
挑戦を助け合えるパフォーマンス
- 日本郵便(株)**
新しく変わっていける外出
- (株)オゼキ**
子育てしやすいつながりづくり
(コミュニティの場)

3_健康×SDGs普及啓発事業

(3) 実施結果：健康×SDGsシンポジウム

- SDGs及び健康分野の有識者講演や、学生PBL事業・ローカルダイアログ事業等の成果発表、SDGsパートナーの事例紹介など、一連のプログラムを実施することで、SDGs・健康の普及啓発や意識醸成を図った。
- 参加者間の情報交換や出会いの場など、プラットフォーム機会としても機能した。

時間	部	プログラム	スピーカー	参加方法
13:05	第1部	講演 ①SDGs総論と地域で取り組む意義	大阪大谷大学 岡島克樹 教授	会場
13:35		講演 ②産官学医で取り組むロコモ予防について	富田林医師会 宮田重樹 会長	会場
14:05		講演 ③健康になるための身体活動	筑波大学 中田由夫 准教授	会場
14:45	第2部	①SDGs未来都市の取組紹介 (全体像)	市政策推進課	会場
14:55		①SDGs未来都市の取組紹介 (健康ポイント事業)	アルケア(株)・市高齢介護課	会場
15:05	第2部	②大阪大谷大学課題解決型実習ービジネスプラン発表ー +審査	大阪大谷大学学生	会場&zoom
			岡山大学 志水武史 准教授 大阪産業局 小野恭義 プPBL専業学生発表 (株)クレメンティア 荒尾裕子 代表	
16:05	第2部	③SDGsローカルダイアログ成果発表 (オープニング)	(株)クレメンティア	会場
16:20		事業プラン発表	大塚製薬(株)・日本郵便(株)・第一生命保険(株)・ (株)ジェイコムウエスト・(株)オゼキ	会場&zoom
17:05	第2部	④富田林市SDGsパートナーの紹介 (制度紹介)	(株)クレメンティア	会場
17:07		パートナー取組発表	きんきウェブ・第一中学校 (生徒)	会場&zoom
17:30	閉会			会場



基調講演

学生発表



企業間のマッチング

パートナー取組発表



(3) 実施結果：共通ロゴマークの作成

- SDGs未来都市・富田林のテーマである「いのち」「かがやき」「ひろがり」「つながり(マルチパートナーシップ)」を表現するため、寺内町の旧杉山家住宅の螺旋階段から着想を得て、人がつながり合っていくことでいのちを育みながらSDGs未来都市・富田林として富田林市がかがやき、広がっていくイメージを表現。
- 庁内外問わず広く活用できる共通シンボルとして、市ウェブサイトで公表。



SDGs 未来都市
富田林
ACT FOR 2030



ACT FOR 2030
SDGs 未来都市
富田林
PARTNER